

令和 6 年度 自己点検・自己評価報告書

学校法人野又学園
函館短期大学付属幼稚園

学校法人野又学園 函館短期大学付属幼稚園

令和5年度 自己点検・自己評価報告書 目次

I	建学の精神、教育目標	
1.	建学の精神と学園訓	1
2.	教育目標	1
3.	重点目標	1
II	教育の実施体制	
1.	施設型給付幼稚園に移行して	2
2.	教員組織	2
3.	学園関連校との連携	2
4.	学習環境の整備・なかよしファーム	2
III	教育内容	
1.	教育課程の編成と実施	3
2.	特色ある教育活動	5
IV	園児に関すること	
1.	園児数	6
2.	園児募集	7
V	教員に関すること	
1.	教員の資質向上	7
2.	教員の研修	7
VI	社会との連携に関すること	
1.	地域社会との連携	8
2.	P T A活動	9
3.	広報活動	9
4.	子育て支援活動『つぼみちゃん活動』	9
VII	管理運営	
1.	学校運営	10
2.	危機管理体制	10
3.	自己点検・評価体制	10
VIII	財務について	
1.	財務運営について	11
2.	予算編成方針と執行状況	11
IX	園児募集・園閉鎖について	
1.	園閉鎖・新入園児募集停止までの流れ	11
2.	今後の課題	11

(別紙 資料)

① 令和6年度 保護者の評価の集計結果と考察

**学校法人野又学園 函館短期大学付属幼稚園
令和6年度 自己点検・自己評価 報告**

I 建学の精神、教育目標

1. 建学の精神と学園訓

幼稚園が創立してから57年を経過して、道南・函館市の幼稚園教育の発展に寄与してきた。学校教育法によると、「幼稚園は幼児を保護し、適当な環境を与えて心身の発達を助長することを目的とする」とある。

創立者はこの時期こそ、人間形成の基盤を確立する時であると考え幼児教育からの学園の一貫教育を目指した。

この建学の精神を踏まえ、本学園は幼児教育に相応しい環境を与えるための施設設備に最大の努力を払うとともに、教員の資質の向上こそが質の高い保育を目指す上で基盤になると考えて、研修活動の充実を図ってきたところである。

2. 教育目標

本園は、建学の精神の具現化に努めるとともに、学園訓を園児たちにわかりやすく理解できるように、日常的な活動と結びつけながら取り組みを行っている。

○ おとうさん おかあさん ありがとう 【情操】

- ① 豊かな情操（感謝・感動） ② 社会態度（協調・思いやり）

- ◎いろいろなものに美しさを感じ、豊かな感性をはぐくむ
- ◎身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ
- ◎人の言葉や話をよく聞き自分の経験したことを話そうとする

○ すなおに ただしく おぼえましょう 【知的】

- ① 思考力（考える力・工夫する力） ② 創造力（創造性・想像性）

- ◎自然の中の色々な事象に興味や関心をもち遊びに取り入れようとする
- ◎身近な事象を見たり触れたりする
- ◎経験したことを自分の言葉で表現し伝え合う喜びを味わう
- ◎イメージを豊かにもち、いろいろな表現を楽しむ
- ◎絵本や物語などに親しみ、想像を豊かにする

○ すすんで よいこと いたしましょう 【意志】

- ① 健康な身体（活動・意欲） ② 生活習慣（自主性・安定性）

- ◎幼稚園生活を楽しみ自分の力で行動しようとする
- ◎体を十分動かして進んで運動しようとする
- ◎社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける

3. 重点目標

『 すこやかに、たくましく そしてやさしい心を 』

- ① 豊かな環境で生き生きと育ちあう活動
- ② 自主性・創造性をはぐくむ活動
- ③ 小動物や自然に親しみ、豊かな感性をはぐくむ活動
- ④ 絵本や音楽、製作・表現活動に親しみ、豊かな感情をはぐくむ活動
- ⑤ 徒歩降園・遠足・登山などを通して、健康・安全への意欲を育てる活動
- ⑥ 給食や弁当を通して、家庭と協力しながら「食」の楽しさを味わう活動
- ⑦ 英語遊びを通して、外国との違いや日本のよさに気づく活動

Ⅱ 教育の実施体制

1. 施設型給付幼稚園に移行して

平成28年度から施設型給付幼稚園に移行して、順調に各段階での取り組みを進め定着を図ってきたが、少子化による園児数減少は否めない状況にある。

① 保護者への周知・理解

園児数の減少により施設型給付費の収入が減ったが、保護者は、今までと同じような幼稚園として進めていってほしいと願っている。これからは保護者の意見、要望などを聞きながら進めていく。保護者も少子化、園児の減少は感じている。

② 書類の作成・整備

移行後、各種書類の作成も順調に行えるようになり、給付がスムーズに行えるようになった。各種書類についても市と連携をとることで確実に提出することができた。

2. 教員組織

本園の専任・非常勤の合計教員数は、園長1人、教頭1人、教諭7人、パート職員3人、非常勤講師4人、事務1人、給食補助1人で合計18人である。

専任教員の年齢別構成は60代2人、50代1人、40代1人、30代1人、20代4人である。

【現状】

先生たちは一番経験の浅い学級担任でも4年目ということで、ある程度の力量を身に付け指導に当たっているため、力を発揮して保護者の信頼も厚く、園児が安心して幼稚園生活を楽しんでいる。

【課題】

園全体としての保育・教育についての質の向上に力を注いでいく取り組みが必要である。昨年に引き続き教務主任が各クラスの状況を掴み、若手の教員の指導を行っていた。また、園児数の割りにはパート職員数が多く、今後その点も考えていかなければならない。

3. 学園関連校との連携

学園の各校とは日常的に連携を強化しているが、特に、函館短期大学とは連携協定を平成25年に結び、付属幼稚園としての機能を発揮できるようになった。

○ 函館短期大学

- ・ 学生が園児と関わる活動を多く取り入れる。（観察実習等）
- ・ 運動会において、ボランティアとして園児の面倒をみてもらう。
※運動会の日程が函館マラソンと同じであり、ボランティアに来て頂けていない。
- ・ 2年生による創作劇を年長児が鑑賞する。

○ 函館短期大学付設調理製菓専門学校

- ・ 津波による避難訓練を合同で実施し、調理製菓の校舎3階までの避難を行っている。（9月2日）

○ 函館大学付属有斗高校

- ・ 幼稚園の運動会での施設利用、活用（6月30日）

○ 函館短期大学付属柏稜高校

- ・ 幼稚園の生活発表会での施設利用、活用（12月1日）
会場設営等を学生が行ってくれる。
- ・ 音楽発表会での床用マットの借用（3月1日）

○函館看護専門学校

- ・今年度より看護科学生の実習が行われる。（４月～９月）
- ・学生５名が運動会においてボランティアとして園児の面倒を見て下さった。

【現状】

函館短期大学とは連携協定を結んでいることから、人的・物的にも幼稚園運営に当たって力添えをいただいている。他の関連校とも連携を強め、各行事などでのお力添えをいただいている。

【課題】

今後、深堀保育園や上湯川保育園との連携を進め、カリキュラムや行事での園児や教員の交流・研修などを進めていく必要がある。

４．学習環境の整備・なかよしファーム

保育を充実させるために、園の施設全体で常に園児が学びを構成していけるような環境づくりに力を注いでいる。

園庭では、砂場の活用や固定遊具などで園児の遊びの内容を確実に広げていけるように整備を計画的に取り組んでいる。

ホールでは、縦割り保育や自由に遊ぶことが出来るような環境構成を作り上げていく取り組みを日常的に行っている。

○ なかよしファームの整備・活用充実

なかよしファームでの自然体験（幼稚園自然農園）野菜や果物の栽培

住宅地域にあるため、畑だけではなく、ビオトープ的なイメージで自然環境を園児たちに感じていくことが出来るよう食物連鎖を見たり、感じ取ることが出来るよう職員・PTA役員ともアイディアを出し合っている。

a) 本年度は、園児が積極的に日常的に世話をして野菜や果物を育ていけるように園児が活動しやすいような道具を整備した。

クラスで育てるものを決めて、畑に自分たちで植えることで水をやりながら植えたものの成長を確認した。

- ・春ダイコン（年長）― 夏休み前に収穫して、家に持ち帰った。
- ・じゃがいも（年長）― ２学期になってから、収穫を体験した。
- ・さつまいも（年中）― 各家庭に持ち帰り食べた。また、干し芋づくりを行う。
短大食物栄養科の先生と学生とスイートポテト作りを行う。
給食に蒸したさつまいもを提供し全園児で食べた。
- ・枝豆（年少）― ２学期に収穫し豆のもぎ取りを行い、家に持ち帰った。
- ・さくさく王子（ひよこ）― １学期後半から収穫し幼稚園で茹でて食べた。またその都度家へ持ち帰った。
- ・スイカ、ミニトマト、きゅうり、レタス、ピーマン、ブルーベリー、ぶどうなどを収穫した。特にスイカは９玉収穫でき、給食時に全園児で食べた。

Ⅲ 教育内容

１．教育課程の編成と実施

◎豊かな心と考える力の育成

中期経営目標 のびのびと遊び、多様な体験や経験をする中で、豊かな感性や知的好奇心を養い、自ら考え取り組む意欲や態度を育てる。

短期経営目標 ・豊かに感じ、人とのかかわりや様々な体験を通して思いやりや協同する力を育む。

・感動する心や物事に気づく力を養い、主体的に考えたり試したりすることで思考力を育てる。

① 英語遊び（４月～２月）……各学年１家庭１回ずつ１名の参観を実施

○年長組…ガルシア先生と一緒に発音や単語など、基本的な内容を繰り返し行う。
（１６回）

○年中・少・ひよこ組…高品先生と一緒にリズムや踊りを通して、英語に親しんだり楽しむ内容を行う。（年中：１６回、年少：１０回、ひよこ
７回）

② リズム遊び（ひのき屋 ４回 ５月２８日、７月２日、１０月７日、１月１６日、
２月１３日）の計５回

・全園児がひのき屋の太鼓のリズムに合わせて踊ったりするだけでなく、太鼓叩いたり、楽器を鳴らしたりして、リズム感を養い、園児の身体の成長や脳の発達をしっかりと支える取り組みを行った。２部制で行った。

③ 人権教育・パネルシアター鑑賞会（８月２２日）

・年長児２８名が参加。友達の大切さや命の大切さについて学び、貴重な時間を過ごすことが出来た。

◎ 基礎体力・運動能力の定着を図る。

中期経営目標 計画性をもって運動遊びや体づくり活動を充実させ、元気な基礎体力と運動能力を養う。

短期経営目標 ・日常から進んで体を動かし、運動の楽しさを感じとり、友達と元気に遊ぶ園児を育てる。

・遊具や備品・教材を見直し、安全に楽しく運動できる環境を整える。

① 体育遊び一（金曜日 年長：１１回、年中：１０回、年少：９回、ひよこ：５回）

各学年１家庭３回ずつ１名の参観

・園児全体に、基本的な体づくりのための運動を中心に進め、各種のスポーツに興味を持ち楽しめるように取り組む。

② 水泳遊び一（木曜日 年長：１０回、年中：８回、年少・ひよこ：７回）

各学年１家庭３回ずつ１名の参観

今年度から実施場所を短大よりジョイフィットスポーツジムに変更

○園の周囲の散歩（桜ヶ丘通り ４月２３日）

○運動会（有斗高校 ６月３０日）

○函館山登山（９月１５日）年長・年中

○香雪園（年少・ひよこ）

○ラグビー体験実施（１０月１６日）年長・年中

○雪遊び（香雪園 １月１７日）

② 「レッツ・ダンシング！ みんなで踊ろう」

（５月１７日 ７月２２日 １０月１８日 ２月６日）

・本園保護者でダンス教室の先生をしているU g aさんを講師に、親子でダンス体験を行った。保護者も楽しめる活動であり、今後も行っていきたい。

2. 特色ある教育活動

1) 感性をゆさぶる園内外の自然環境の活用

- ・街の中にある幼稚園として、遊び、そして各環境を活用して園児に知的好奇心を育てるための取り組みを進めている。

、① 園庭での自然体験

ア) 園庭の樹木

- ・四季折々に花を咲かせる花木類
- ・園の周囲の木々の色々な形や色の葉や実を活動に利用する。
- ・秋には園のシンボルでもあるかしわの木から、実や大きな葉を遊びに利用する。

③ 園外での自然体験を通して知的好奇心を育てる

○ 年間を通しての取り組み

ア) 桜ヶ丘通り散歩 (4月23日)

- ・幼稚園の近くの桜並木を園児全員で見て、春を感じながら散歩をする。

イ) いちご狩り遠足 (6月12日)

- ・広いいちご園の中で自由に園児の手でいちごを摘み取り、自然を感じる。

ウ) 秋の遠足

函館山登山 (9月13日) 年長・年中児が函館山の自然に触れながら、山頂を歩いて目指す。

香雪園 年少・ひよこ満3歳児が秋の木の実などを拾う。製作活動に木の実を取り入れて遊ぶ。

エ) りんご狩り遠足 (10月1日)

- ・大野農業高等学校の学生さんから、りんごについての説明・取り方を聞き、りんごを園児の手で摘み取り、実のなりを感じる。

2) 食育を通して園児を育てる活動

- 食に関しての興味を園児に持たせる。

① 米の苗植え (6月5日 年長児)

田んぼでの苗植えを体験した。(森町濁川地区山本農園)

② 稲の観察・写生 (8月30日 年長児)

稲の生長具合を観察し、稲の写生を行った。

③ 稲刈り (9月24日 年長児)

自分たちの植えた稲の収穫を体験した。

④ クッキー作り (10月17日 年中児)

年中児が保護者と一緒にクッキーの型抜きを行い、焼いて完成させた。

⑤ スイートポテト作り体験 (11月14日)

短大食物栄養科の職員と数回の打ち合わせを行い、当日職員2名と学生7名にスイートポテト作りを教えてもらい作った。その後、職員と学生さんが焼いてくれ、自分で作ったスイートポテトを味わった。美味しいと評判であった。

⑥ 米のもみすり機（精米）体験（１０月２８日 年長児）

森町濁川の農家山本さんが精米機を持参し、もみすり体験を行った。

⑦ もちつき（１２月６日 全園児）

全園児と保護者が協力して、餅つきを行い、ついた餅を昼食として食べた。

⑧ ケーキ作り（１２月１２日 年長児）

・ペシェミニョン・パティシエである本園保護者の指導の下、年長児がそれぞれの考えでケーキにデコレーションを行い、完成後、講評していただくことで感性を伸ばす取り組みになった。その後、全園児でデコレーションしたケーキを食べた。

⑨ 玄米の試食（１０月３１日 全園児）

年長児が育てて収穫した米と玄米を給食時間に食べ比べした。

３） 園児を育てる幼小連携活動

・函館市立駒場小学校と連携を強め、小学校への入学がスムーズになるような取り組みを行った。

① みんなで遊ぼう 年長児と１年生の交流（年長児）（７月３日）

・駒場小学校の体育館で、年長児と１年生が交流を深める。

② ハロウィンを楽しもう 全園児と１年生と交流（１０月２４日）

・幼稚園ホールで年長児と１年生が交流し、ハロウィンパーティーを行う。
その後、年中・年少・ひよこ組でハロウィンパーティーを行った。

③ なかよしフェスティバル 年長児と２年生の交流（９月３０日）

・「みんなで遊ぼう」小学校の雰囲気を楽しみ、進学に対する期待と安心感を持った。

Ⅳ 園児に関すること

１．園児数

園児数の推移は減少傾向にあり、さらには満３歳児での入園を控える家庭が多い傾向にあった。そのため、園児数の減少とともに給付費も減少している。令和６年度は下記のように６１名の園児数である。（満３歳児については、誕生日を迎え３歳となる前日から園児数として数えることができるため、年度末には園児数は７０名となる。）

◆園児数の推移 （５月１日現在の園児数）

H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
1 1 5 名	1 1 4 名	1 1 0 名	9 6 名	8 6 名	6 1 名	6 1 名

【課題】

少子化についてはどうしようもない問題である。ホームページを中心に幼稚園の様子等を知らせ、入園に結びつける活動を各機関と協力しながら進めることが必要になっている。また、入園希望者の８割はつぼみちゃんの参加者であることから、つぼみちゃんの活動を工夫しながら進めている。

2. 園児募集

園としての考え方がわかる募集要項を作成して活用を図っている。特に、通園にはバスを使わないメリットをしっかりと訴えてきた。

また、先生ブログの更新や園長の「かしわの木」の発信など、ホームページの充実を常に心がけている。

【現状】

今まで行っていた看板での園児募集を止め、ホームページで幼稚園の様子を紹介することや自作のポスターなど、幼稚園の良さを知ってもらう取り組みを続けている。また、「つぼみちゃん」への参加者を多く集めることが大切と考える。

【課題】

バスのない幼稚園としては、登園する家庭の地域に限られることから、バスの運行も考える必要がある。また、幼稚園の考え方や教育内容をわかってもらうことで、園児獲得につながっていくので、そのための取り組みを園全体で考え取り組んでいく。

V 教員に関すること

1. 教員の資質向上

教育目標の達成をめざし幼稚園全体、学年や学級で定期的に取り組みの状況を知らせ合うなど、家庭や地域との連携を深めるために情報の共有化を積極的に推進し、日夜研鑽に取り組んでいる。

【現状】

打合せ等を日常的に行い、教員の資質向上に関することについて共通理解を図っている。各自の課題も持ちながらその解決のために研修を深めている。

【課題】

学園の職員としての資質向上についても、力を入れていくことが必要である。

2. 教員の研修

幼稚園教育の状況が大きく変化してきている中で、教育情報を的確にとらえ、月に1回を全体での研修と位置づけ、その時に各自の個人の研究なども使いながら研修を深めている。

1. 研修会参加

1) サマースクール……参加せず

2) 第66回北海道私立幼稚園教育研究大会道南支部大会

…… 9月27日 認定こども園カトリック湯川幼稚園 3名参加

10月 9日 認定こども園第二太陽の子幼稚園 4名参加

10月25日 函館あおい認定こども園 3名参加

10月26日 函館ロイヤルホテル全体会 全員参加

3) 全道初任者研修会……該当者なし

2. 園内研修会

1) 園内研修会

① 4月27日(土) 乳児小児救命講習・エピペン講習会 9:00～11:00

・講師：救命のリレー普及の会

内容：小児や乳児の心肺蘇生法、エピペンの使用方法について

② 5月25日（土） 9：00～11：00

・各クラスで気になる園児について

③ 6月22日（土） 9：00～11：00

・子ども、職員の命を守る口での防災対策の新常識

④ 函館短期大学専門職研修講座 9：00～12：00

9月8日（日） 幼児期からのジェンダー教育—子どもたちが自分らしく生きるために— 講師：川村 幾代 1名参加

10月27日（日） ICTに使われていませんか？—「ICTに使われる」から「ICTを使う」へ— 講師：柏倉 義 2名参加

12月22日（日） 発達障害のある子どもからみた保育の日常
講師：白府 士孝 7名参加

⑤ 1月25日（土）

函館市特定教育・保育施設等関係職員研修

「食物と食物アレルギー」 講師：川村 幾代

【現状】

幼稚園の現状としては、特別支援教育がとても重要な視点となっているため、短大に専門の先生が来ていただけたことは大変心強いところである。今年度も気になる園児の観察と保護者への説明等で数回来園して指導を受けた。さらに研修機会を深めていくことが大切である。

【課題】

なかなか時間を取ることができないが、全体で研修の時間を作り、これからの幼稚園の在り方について研修を深めていくことが必要である。

Ⅵ 社会との連携に関すること

1. 地域社会との連携

柏木町会などに園からの情報発信を積極的に行い、PTA・地域・小学校との相互のコミュニケーションを豊かにして説明責任を果たしている。

園の行事などについても、町会などに知らせることで園と地域社会とのつながりを強めていくことになっている。近隣の小学校との幼小連携も駒場小学校だけではなく積極的に進める。

【現状】

柏木町会や柏木商友会などとの行事などに積極的に協力を進めることが出来た。町会の夏祭りに園児による子ども神輿に参加し盛り上げていた。

【課題】

近隣の小学校との連携を行事だけでなく、スタートカリキュラムなどについても研修等を企画していくことが求められているが、そこまで踏み込むことが出来なかった。来年度はその点についても交流していきたい。

2. PTA活動

保護者と教職員が一体となって、園児の健全な成長のための取り組みを積極的に行っている。これからも幼稚園と価値観や活動を共有し合い協力を進めていきたい。親子遠足、

夏祭りなどの行事に対して主体的に活動を進めている。

(1) P T A子育て相談

小岩先生に子育てについての悩んでいることを相談できる機会を学期ごとに設けて、好評を得た。

- ① なかよしファームの草取り（４月１８日 ９名）
- ② 親子遠足（５月９日）
 - ・四季の杜公園で開催。園児・保護者は一緒にバスに乗車して向かい、親子で楽しく遊ぶことができた。
- ③ 保育参観日（５月２２日 ８５名、９月７日 ８６名）
- ④ 父母懇談会（７月１６日 ２９名）
- ⑤ 夏 祭 り（７月２０日）親子で楽しめていたようだ。
- ⑥ 父母懇談会（２月２０日）……２部に別れて（３７名参加）

【現状】

P T A 総務が中心となって、行事に対して積極的に活動を行っている。P T A 全体が園に協力的で考え方を一緒にして活動を進めている。

3. 広報活動

園児募集に関しての広報のあり方が中心であったが、本幼稚園の良さを広く伝えることが有用と考え、広報の仕方を根本的に変更してきた。

園児にとって価値ある保育・教育を受けることが出来るという広報の仕方、特に、これから幼稚園に通うような幼児を持つ保護者に訴えるように広報を進めてきた。

自作の募集ポスターを近隣のお店に掲示してもらったり、ホームページで幼稚園の日常の様子を紹介することでどんな幼稚園かを知ってもらうことにした。

1) ホームページ活用・充実

・ブログ活用

ホームページのリニューアル化で、幼稚園の様子をブログで紹介することができるようになり、保護者から高い評価をもらった。

また、入園希望者がホームページを見て園の活動内容などに賛同して入園を考える保護者が多くなってきた。

保護者・祖父母限定の動画配信も行い、好評であった。

【現状】

園の活動の様子、特に行事などでは各報道機関に知らせ、取材が入ることもあり、広報の一つの方法としてできた。また、ホームページの閲覧者が多いため、この点を重視し活動している。

【課題】

今後は各情報を的確に分析しながら、効率的に組み合わせて活用しながら広報活動に活用を図っていく取り組みを幼稚園内で進めて行く。また、ブログでの内容の検討が必要である。

4. 子育て支援活動『つぼみちゃん活動』

未就園児（１歳～３歳未満）の子どもとお母さんが、より多くの親子と関わり、親しみ、幼稚園で楽しく遊ぶ体験ができる場として、また、お母さん同士で子育ての悩みや相談などができる交流の場となるように活動した。

今年度も加入数が５０組になり、常時１５組程度の親子の参加がみられた。今年度は予定通りに開催出来、内容に対するアンケートを取ることができた。１８回の開催となった。

また、この活動に参加するために幼稚園に来る機会が増え、満３歳児ひよこ組のクラスの活動を見学し入園を考え、途中入園が６名いた。

【課題】

今後とも、幼稚園の教育活動を理解してもらう活動に力を入れていくことが求められる。また、満３歳を迎えたお子さんの家庭には入園を進めていく必要もある。

Ⅶ 管理運営

１．学校運営

幼稚園を取り巻く環境等を冷静に分析することを通して、幼稚園の特色を生かし、組織的な創造力を発揮する運営体制を確立していく。教育目標の具現化を図るとともに、園児の達成状況が把握しやすいよう、行事などで園児の成長を読み取り、園児の成長の様子を具体的に具現化を図りながら、保護者などに示していく。

１）預かり保育の充実

保育終了後、午後６時３０分まで専任の職員を配置し、さらにパート職員の勤務時間を調整し午後５時３０分まで勤務してもらったことで正職員の負担が軽減された。今年度は預かり保育を予定通り実施することができた。本園では活動内容を事前に月ごとに保護者に知らせることで、安心して利用することもできている。

２．危機管理体制

職員で共通理解を図っている。また、他機関との連携を図るなど、さまざまな危機を想定し、具体的な対応ができるよう危機管理能力の育成を図ってきた。

１）防犯カメラの設置

防犯上の対応の一つとして設置している。今後、職員や保護者の危機管理の意識を高めていく。

２）各保育室、遊戯室、職員室へのエアコン設置

エアコンが設置され、園児、職員が安心して生活できている。

【現状】

調理製菓専門学校と連携を図り、避難訓練や津波の時の避難場所としての練習などを行っている。

【課題】

降園時における危機管理について今までは何もないが常に職員で話し合っている。園と保護者が協力をして対応を進めて行くことについて話し合いをもっている。

３．自己点検・評価体制

教職員に年度末に反省を踏まえて、自己評価を提出してもらい、その分析と保護者の評価を基にして全教職員と面談を実施している。

全教職員と日常的には共通理解を図る取り組みを行っているが、全教職員で年度末に課題として残ったこと、次年度に積極的に取り組んでいくことを共通理解している。

また、今年は保護者に１０項目にわたる評価表を渡して評価をしていただいている。

【課題】

次年度の幼稚園の経営や運営に活かしていくことが出来るように評価を整理し、共通理

解を十分にしていけることが求められている。

Ⅷ 財務について

1. 財務運営について

少子化による園児の減少により、幼稚園入園者の減少は今後さらに加速していく傾向にある。そのため、施設型幼稚園として園児定員数を下げるなどしながら財政面での安定を進めていく。

今後一層の厳しい経営環境に備える必要がある。安定した園児確保のためにも、保護者のニーズに合うように対応を考えながらも、園としての考え方を前面に出し、園児獲得に取り組んでいたが、12月に7年度の園児募集が決まった。令和10年3月で閉園となることが発表された。

施設が老朽化してきており、施設については改修改善を図り安定した教育環境の維持・提供も必要になってくる。

【課題】

健全な財務運営のための園児獲得を積極的に進めていくためには、園の教育内容を広く周知してもらうための取り組みを積極的に行っていく。

2. 予算編成方針と執行状況

予算編成においては、保育料ではなく、平成28年度から施設型給付になったことで給付金収入になった。そのため人件費や管理経費等の支出とのバランスをとり、単年度収支の健全化を図るようにしていた。しかし、人件費の多さもあり今年度も赤字となってしまった。

予算の執行においては、その執行時に再度内容を精査し、より効果的に執行できる可能性を探り、最大限の支出削減に努めている。また、光熱水費においては設備の経年による効率の悪化を配慮しながらも、よりきめ細かい管理による効率化を図っていきたい。施設内の照明についてはLEDとなった。園児数減少により、パート職員を減らすなども行った。

老朽化してきている施設等の整備に関しては、随時、本部とも協議しながら対応を進めて行く。

Ⅸ 園児募集、園閉鎖について

1. 園閉鎖、新入園児募集停止の流れ

令和6年12月の理事会において7年度園児募集停止、10年3月園閉鎖となることが決定した。

12月14日（土） 第1回保護者説明会 参加保護者 46名

・令和7年度以降の運営について理事長、松田事務局長より説明があった。

・新入園児の原則募集停止について

全園児の意向調査の手紙を配布する。令和7年1月16日までに提出していただく。アンケートの結果、転勤で転園する子以外は転園しない方向でいる保護者が多かった。3月末に兄弟が他の園に入園することが決まり、転園する子が3名いた。

12月16日（月） 新入園児募集停止へ 願書受付していた保護者に連絡

12月18日（水） 新入園児説明会 参加保護者 8名

12月25日（水） 第2回保護者説明会 参加保護者 23名

1月 8日（水） 第3回保護者説明会 参加保護者 27名

2. 今後の課題

保護者会での保護者の要望をしっかりと踏まえ、今まで行ってきた活動はできるだけ

継続し（内容を変えるなどし）また、少人数だからこそできる活動を取り入れていきたい。
年度末には次年度、本園に残るかの確認をしていかななくてはならない。その残る人数によって、できる活動内容を検討していきたい。